

ポイント

## 住民参加型の創作レシピコンテストやご当地バーガーの開発など市民が誇れるグルメづくりで街を活性化

関門海峡に面する北九州市門司区の商店街。再開発等で増加する新住民を取り込むために、商店街側の発想によるイベントから市民目線での企画に方向転換。地元産品を材料にしたご当地バーガーの開発や“食”をテーマにしたイベントの開催など、地域の住民を巻き込んだ若手組織が中心となって、自らの力で実現可能なテーマを見出し、次世代を見据えた新たな街づくりに挑戦している。

### 商店街情報

所在地：福岡県北九州市門司区大里戸ノ上1-2-25  
地域の人口：101,471人  
50,540世帯(北九州市門司区)  
商店街の類型：近隣型商店街  
組合員数：127名  
店舗数：101店舗(食料品小売業、生活・日用品小売業、飲食業、サービス業など)  
TEL・FAX：093-381-4127  
URL：<http://dairi.webcrow.jp/>



商店街の風景

### 商店街の概要と近年の環境変化

関門海峡に面し、古くから本州と九州を結ぶ海上交通の要衝として栄え、海と山々に囲まれた北九州市門司区の「大里地区」。1183年、安徳天皇を伴った平家の一行が「柳の御所」を設けたことから「内裏(だいり)」と呼ばれるようになった由緒ある地域で、江戸時代には参勤交代の大名や旅人で賑わう宿場町となり、明治時代には近代化の波とともに沿岸部を中心に工業地帯へと変貌を遂げてきた。

当地区では、60年ほど前に住居複合型市場が設置されて以降、2軒のスーパーの進出を機に生活関連の多様な店舗が集積して商店街を形成。現在の組合は、JR門司駅の南口に基盤の目状に形成された六つの商店街で構成されており、駅周辺で営業する飲食店、食料品店、衣料品店やサービス業を中心とする近隣型商店街である。歴史ある地域柄“昭和の香り”を色濃く残す街区に、海と山の幸に恵まれるという地の利を生かして生鮮三品の店舗も頑張っており、地域住民の日々の生活を支える重要な機能を担っている。

しかし、門司区も少子・高齢化が急速に進み、来街者の中心をなす古い馴染み客は徒歩から車やタクシー利用へと変化、来街頻度が減少傾向にある。また、商店街も後継者の不在等による廃業で空き地や駐車場が目立ち始め、商業機能の低下が危ぶまれている。

一方、門司駅の北口周辺は、ウォーターフロントの再開発に伴ってビール工場等の歴史遺産を活用した“門司赤煉瓦プレイス”などの交流・観光施設が設置され、風光明媚な街づくりが進むとともに、7年程前からタワーマンション等の開発が進み、子育て世代を中心に約900世帯が移り住んでいる。しかし、周辺には商店街がなく新住民の多くは車を利用して郊外のSC等に出向いており、当組合ではこれらの新たな客層をいかにして取り込んでいくかが喫緊の課題となっている。



門司 赤煉瓦プレイス

## 助成事業の概要とその成果

来街者が高齢化しつつある中で、今後商店街が生き残るためには、増加している若い世代の住民に商店街の魅力を伝え、身近な店舗の良さを認識してもらう必要があった。組合では、従前から屋台の出店型イベント「大里のばか力」を開催してきたが、集客効果がイベント日に限定されるなど一過性であることを反省。商店街の構成員に飲食店や食料品の販売関係が多く、創作グルメの下地があったことと、地域住民を巻き込みやすいことから“食”をテーマに、コンテスト方式の住民参加型イベントを企画。子育て世代にとって魅力があり、継続的に足を運んでもらえる取組みを目指した。

また、他の商店街同様店主の高齢化が進み、事業活動も硬直化の傾向にあったが、副理事長をリーダーとする青年部が中心となり、街づくりに意欲的な地域住民も加わって「実行委員会」を組織。定期的に千円の会費で会合を重ねることから「SEN縁会」と名付けられ、新たな商店街活動の企画から運営等を担い、助成事業の実施に関しても中核的な役割を果たした。

### 【26年度事業：みんなでつくる「大里の底ぢから」創作グルメコンテスト】

大里地区は近隣の高校の通学路でもあり、朝晩通過する若者のアイデアや行動力を街に取り込めないか、との発想から、学校や自治会などの協力を得て住民参加による創作グルメコンテストを実施。メニューとして、女性に興味を持ってもらえるよう『体を温める冬のあったか料理』と『オリジナルスイーツ』の2部門を設けた。地元FM局やWebサイトを通じて料理のレシピを公募したところ、小学生から主婦まで幅広い層からの応募があり、9点を選定して協力店舗で一般に提供。市民から投票してもらい優勝者を決める方式で実施した。

投票期間中には300名を超える新規来店客が訪れ、商店街に関心を持ってもらえたほか、コンテスト当日は商店街内の空き店舗を利用して「グルメ広場」を開催。ステージイベントや会員店舗が出店を設けて雰囲気盛り上げ、250名を超える人々が集まった。

第1回：「冬のあったか料理」110食を提供・優勝「キムチチゲうどん」

第2回：「オリジナルスイーツ」220食を提供・優勝「ふんわりイチゴムース」

商店街では、優勝したそれぞれのメニューについて、飲食店やイベントなどで販売を計画し、新たなご当地グルメとしていくことを狙っている。

イベント風景



大里バーガーの販売

## 助成事業以降の商店街活動

助成事業の実施を契機に、創作グルメを提供した協力店舗には子育て層を中心に来店客が増加する等の具体的な効果があり、これら世代層の買い物ニーズへの対応が必要であることが認識された。そこで商店街では、イベントの中核を担った「SEN縁会」が中心となり、新たな客層の固定客化を狙って下記のイベントを企画・運営している。

### (1)大里ビアストリート

かつて門司駅の北口エリアにビール工場があったことに因んで「大里ビアストリート」を開催。2016年で第6回目を迎え、毎年趣向を凝らすことから地域の人々も楽しみにしているイベントに成長。8月後半の土曜日、商店街の街区に出店を設けるビアガーデン方式で、市場や商店街が取り扱う新鮮な食材を提供し、1,000人を超える来街者で賑わった。

また、イベントでは「SEN縁会」開発のご当地グルメ『大里バーガー』も販売され、瞬く間に完売した。『大里バーガー』は、商店街の店舗が取り扱う肉や野菜を使い、現在はイベント中心の販売だが、今後はご当地グルメの代表として日常的に販売されることが期待されている。



大里ビアストリート

## (2)門司区のイベント等の活用と大里ハロウィン他

新たな商圈として期待される北口エリアの「門司赤煉瓦プレイス」において、門司区が開催した「大里こだわり食市」で大里バーガーを販売、新住民に対して商店街の魅力をPRした。

また、平成28年に初めて「大里ハロウィン」を開催、地元のコスプレ団体と連携してスタンプラリーを実施した。参加者は仮装して組合員店舗を回り、スタンプを集めてお菓子をもらうというもので、当日は、口コミで多数の仮装した親子連れが参加。大里地区ではもともとコスプレイベントが開催されており、様々なコスプレーヤーが各店舗でスタンプ係となって参加者の台紙にスタンプを押した。

さらに「歳末感謝祭」も継続して実施している。“牡蠣の詰め放題”などの目玉企画を盛り込んで地元の名物イベントとなっており、新住民の集客につなげている。



大里ハロウィン

## 自治体等との連携の状況



北九州市  
City of Kitakyushu

北九州市では、平成15年に策定した「都市計画マスタープラン」において“街なかを重視した街づくり”を提唱。従来の郊外開発による市街地の拡大策から街なかの再生を目指した施策を打ち出している。特に大里地区は、“都心に近く、自然に恵まれた良質な住環境に多くの居住者を受け入れる街”として、若い世代が魅力を感じ、子育てしやすい街づくりを進めていくこととしている。また、商店街については、門司駅を中心とする拠点機能の充実化のため、駅南側の既存商店街の活性化推進と、新たな商業・アミューズメント施設の誘致を進める駅北側との連携を深めていくことの必要性を挙げている。

さらに、北九州市では、商店街を盛り上げて市民生活の向上を図るために「北九州市商店街の活性化に関する条例」を平成25年に制定。「商店街賑わいづくりスタート支援事業」、「商店街活性化計画づくり支援事業」等の支援策を講じて商店街活動をバックアップしている。

## 商店街の今後の戦略

助成事業を活用したイベント等で多くの若い世代が街を訪れたことから、“来街者の若返り”が可能であることを目の当たりにし、商店街事業の主な訴求対象が若者であることを再確認。今後は、若者目線での事業を展開し、子育て世代にとって魅力ある街づくりを進め、“住みたい”と思ってもらえるようにしていきたい。

そこで、商店街活動に一石を投じる意味から、一つは、古くからの馴染み客を中心とする生業的な経営を脱し、子育て世代の多様なニーズに対応できる店づくりを推進していきたい。これには街づくりの方向性等についてコンセンサスを得ながら、併せて会員の意識改革を進める必要があると考える。イベントで来街を促しても、リピーターとなってもらうには個々の店舗の魅力づくりが不可欠で、このためには会員の主体的な自助努力が必要である。二つ目は、大里地区の組織強化に向けて、商店街組織を解散した駅前エリアで孤立している店舗の組合員化を図り、ソフト・ハード両面からの街づくりを進めていきたい。

～ 仕掛け人 ～

協同組合大里商店連合会  
古賀副理事長(中央)と  
青年部のメンバー



## 取材を通して明らかとなったこと

商店街活動の活性化には、若い力をどう取り込んでいくかがポイントとなるが、当組合では青年部と地域の関係者から構成される「SEN縁会」の活動が注目される。同会は戦略的な実行組織としての役割を担い、地域密着の新たな発想をもってご当地グルメを住民とともに創り上げるなど、若い世代と商店街のパイプ役としての機能を果たし、子育て世代のファン化に大きく寄与している。

また、当組合では、新住民が“住みたい”と思う街づくりを目指しており、これは北九州市が提唱する街づくり基本計画と同一のベクトル上にある。住環境の良さには地理的なロケーションに加え、日々の生活を充実させるための買物等の機能、住民の一体感を醸成する地域コミュニティづくり等が不可欠である。このため、住民参加型のイベント活動で人々が誇れる名物作りを進め、大里地区に暮らすことの価値を積極的に創造しようとしている。ご当地グルメづくり等の事業から新たな名物が生まれ、次世代に受け継がれる街の仕組みも形成されつつあり、今後の展開が大いに期待される。